

山形県長井市旧西置賜郡役所の復元的検討 ～明治初期の山形県を中心とした郡役所建築の様相～

内田研究室 坏 貴之

研究概要： 旧西置賜郡役所は、わが国に現存する郡役所建築の中で2番目に古いものである。今回、後世の改変によってその価値が歪められていたこの建物について、調査をする機会を得た。その調査結果や、僅かに残された古写真、類例との比較等から、創建時の姿への復原を検討した。

研究目的： 本研究では、旧西置賜郡役所の詳細な調査を行い、創建時の姿への復原を検討する。さらに、明治初期の山形県を中心とした明治初期の郡役所建築との比較を通し、その歴史的価値を明らかにすることを目的とする。

研究成果



現在の旧西置賜郡役所（東面）



南西面



北面



創建時の旧西置賜郡役所

構造形式：木造一部2階建、寄棟造、棧瓦葺、下見板張

古写真から、当初の屋根は棧瓦葺で、窓は上げ下げ窓であり、ベランダ部分の出入口には鎧戸が付いていたことが判明する。

■ 小屋裏から確認した柱位置
■ 柱が取り外されている部分
■ 増築部分

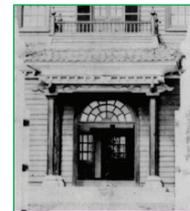
小部屋が存在した

当初は間仕切り壁がなかった

L字型の廊下が存在した

現状1階平面図

現状2階平面図



古写真玄関部分



礎盤

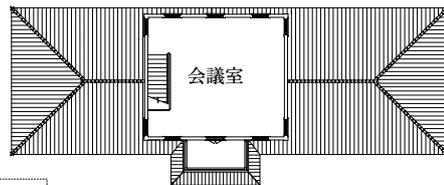


外壁の痕跡

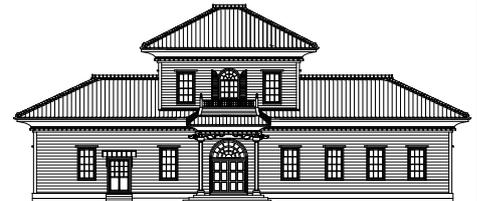
玄関ポーチの礎盤が現存し、ベランダの取りつき部分と思われる痕跡を確認

柱位置の確認により平面の復原が可能

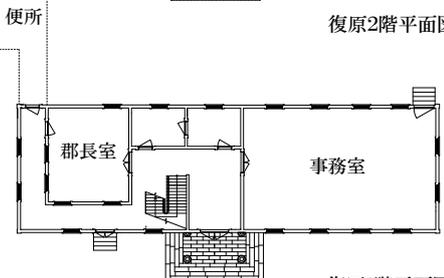
古写真や痕跡から立面の復原が可能



復原2階平面図



復原正面図



復原1階平面図



復原桁行断面図

苦労した点や感想など

旧西置賜郡役所は、創建時の様相を示す具体的な資料がほとんど残らず、またこれまで詳細な調査が行われていないため、調査は完全に一からのスタートになった。平面、立面の実測から始まり、小屋裏や床下まで徹底して調査するのは決して楽ではなかったが、様々な人の協力があり、研究をここまで進めることができた。しかし、依然としてこの建物について復元的検討の余地は多く残されており、今後、更なる調査・研究が行われ、その歴史的な価値が現代に蘇ることを期待する。